



「想いを乗せて走るドクターカー」



24時間 365日、1秒でも早く、 心臓疾患の最後の砦として



当院 心臓専門ドクターカーの出動体制

当院のドクターカーが出動することにより、1分1秒を争う救命につなげる時間を短縮することができます。



1982年。「救急は医の原点」という当時の院長の信念のもと、心臓に関わる救命専門の高機能救急車を導入しました。

受け入れてきた多くは、急性心筋梗塞の患者さん。地域の医療機関から要請を受け、循環器内科医ら医療スタッフが同乗して現地へ赴きます。心臓に電気ショックを与える除細動器、人工呼吸器などを装備して患者さんの急変に的確に対応します。当院で待機するスタッフと連絡を取りながら搬送するため緊急対応の態勢が整い、帰院後の早期治療開始へとつなげます。

1代目の車両は23年走り続け、2005年に2代目へその使命を引き継ぎました。年間最多で600回を超える出動要請に応え、岡山県内を中心に広島県や山陰、四国の患者さんのもとへ走り続けました。走行距離は34万キロを超え、新規車両の購入に向けたクラウドファンディングを実施しました。2022年度内に新車両を導入予定です。



2022年のある日の夕方、倉敷市内の診療所から1本の電話が入りました。「胸の痛みを原因に受診された患者さんに急性心筋梗塞の疑いがある」。ドクターカー出動の要請です。

当院から循環器内科医師や臨床工学技士らに乗せたドクターカーが診療所に向けて出発。到着後に患者さんの搬送を始めてすぐ、状況は悪化しました。「脈が触れない、心停止だ」。医師は車内で心臓マッサージを開始、心臓超音波検査機器で心臓の状態を検査すると、心破裂の疑いが見られた。

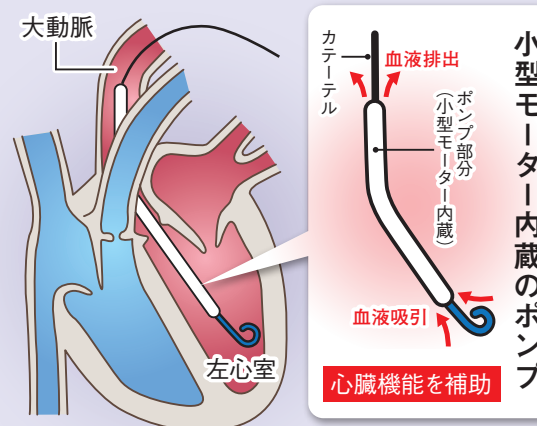
車内からの状況は逐次、当院で待つスタッフに伝えられ、帰院後すぐに治療が始められるよう準備を進めました。かかりつけ医を出発して約10分後。帰院してすぐさまカテーテル室で心肺補助装置などを装着、心臓血管外科で夜間の緊急手術が行われ、一命を取り留めることができました。

このような対応は、決して珍しい事例ではありません。地域のかかりつけの医療機関からの要請に応え、患者さんを救いたい。その思いを持つスタッフたちが、日夜懸命に治療にあたっています。

重症患者を支える設備

IMPELLA (インペラ)

—— 心臓の働きを強力に補助 ——



スクリー式ポンプです。小さいサイズは足の付け根から、大きいサイズは鎖骨の下血管から心臓内に留置します。

重症の急性心筋梗塞や心不全、劇症型心筋炎などでは、全身に十分な血液が送れない状態に陥ることがあります。インペラは心臓の代わりになって全身に血液を送る循環補助装置です。非常に小型なため、従来の循環補助装置よりも体への負担が少なくなります。

2017年9月より日本で使用可能となり、当院では2018年1月から使用を開始しています。

インペラの治療は循環器内科医師だけでなく、心臓血管外科医師、臨床工学技士、看護師、診療放射線技師などで構成するチームで行っています。

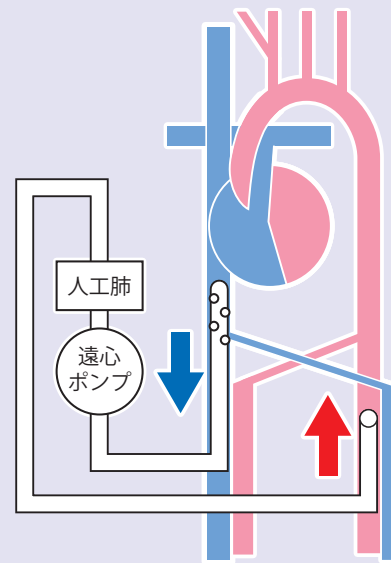
ECMO (エクモ)

—— 生命維持の最後の砦 ——

人工呼吸器や昇圧薬など、通常の治療では救命できない重症の循環不全や呼吸不全の患者さんに対し、最後の砦となる治療法です。

「extracorporeal membrane oxygenation (体外式膜型人工肺)」の頭文字をとってECMO (エクモ) と呼ばれます。遠心ポンプと人工肺を用いて、大静脈から血液を体外に出し、人工肺を通じて酸素化された血液を体に戻すことで、心肺機能を補助します。弱った心臓や肺を休ませ、回復につなげます。

エクモの管理には高度な技術や豊富な知識を持った医師・看護師・臨床工学技士などの人材が必要です。当院でも定期的に訓練を実施し、必要な場面で適切なエクモの導入・運用ができるようにしています。



「突然の重篤な心臓疾患で搬送された患者さんへ、早期に治療を」。



最短で治療をするため、ドクターカーで直接、カテーテルを行う治療室に患者さんが搬送されることも少なくありません。患者さんの治療がいち早く開始できるよう、当院では常に準備を行っています。

ハード面の整備に加え、最大限に力を発揮するためには多職種のスタッフによるチーム医療が欠かせません。患者さんのために全力で力を注ぐ各職種の想いを紹介します。

医療は極めて強い地域性を持っています。例えば遠方の都市に素晴らしい病院があったとしても、地理的条件のために誰もがその病院で診療を受けられるとは限りません。特に救急疾患に関しては近隣の病院での治療となります。最良質の医療を倉敷という地域で実現すること、すなわち「最良質の地域医療」が40年来の私たちの目標であり、これからも変わることはありません。

2013年に始まった大動脈弁狭窄症に対するTAVIをはじめ、僧帽弁閉鎖不全症への新しい治療法であるMitraClip、脳卒中の予防にもつなげるWATCHMAN、カテーテル検査なしに冠動脈のつまり具合が診断できるFFRctなど、新しいデバイスを積極的に取り入れ、侵襲の少ない治療も進めています。

ドクターカーは地域の医療機関との連携の一環として1982年から運用を始めました。導入は全国でも3番目で、搬送中の病状急変に的確に対応できます。できるだけ早く患者さんの治療を開始して治療効率を高めるだけでなく、要請された地域の診療所や病院の先生と当院の医師が直接、短時間でも患者さんの受け継ぎをすることで、地域チーム医療の中での連帯感を深めるコミュニケーションの手段ともなっています。出動範囲は県内だけでなく、広島県や山陰地方、時には瀬戸大橋を渡って四国の患者さんも搬送しています。

引き続き、地域の循環器疾患患者さんの診療にしっかりと取り組んでいきます。



カテナースは患者さんに1秒でも早く、そして安全に治療を開始できるよう、医療材料や薬剤をはじめとしたさまざまな準備を整えます。患者さんの全身状態を即座に把握し、状態の変化を予測して対応しながらも、患者さんの痛みや不安に寄り添い、できる限り苦痛を軽減できるように努めています。

カテーテル治療は医師や看護師、技師の多職種チームでの協力体制が不可欠です。私たちカテナースは、チームの要として緊急性が高い中でも、患者さん中心の温かい医療を提供していきたいと考えています。

私たち臨床検査技師は、臨床工学技士とともに24時間いつでもドクターカーで運ばれてくる患者さんの緊急治療に対応できるよう準備しています。

緊急治療時の主な役割は、モニターでの心電図や血圧などを観察し、いち早く変化を察知すること。さらに血管内超音波（IVUS）などの画像診断の機器を操作・解析し、病変に適したデバイスを選択することです。治療に使用する機器や補助循環装置の準備・操作などさまざまな場面で治療に携わり、ドクターカーで運ばれてくる患者さんが安全で安心できる治療を提供できるよう心掛けています。

臨床工学技士はドクターカーの導入当初から医療機器の保守点検や環境整備を行い、長距離搬送でも安全に治療できる環境を提供してきました。人工呼吸器やECMOが装着された重症患者の搬送だけでなく、2019年からは心臓疾患を抱えた患者さんを搬送するドクターカーにも同乗することとなりました。医師が治療に専念できるよう医療機器の装着や操作を行い、トラブル発生時は治療が中断しないよう迅速に対応しています。

今後もチーム医療の一員として、多職種と連携し、地域貢献に尽力していきます。

看護師

臨床検査技師

臨床工学技士

倉敷中央病院ドクターカークラウドファンディングに多大なるご支援をいただき、誠にありがとうございました。7月27日から9月30日までにお寄せいただいたご寄付は **807件** で、

目標金額を大きく上回る **50,063,380円** となりました。

御寄付をいただいた方々、応援いただいた皆さまに心より御礼申し上げます。

コロナ禍で皆さま大変な状況のなか、当院にお気持ちを寄せてくださる方が多くいらっしゃる。そのことが職員の希望、明日への活力、勇気となっております。多くの期待をあらためて自覚し、地域の皆さまに高い水準の医療が提供できるよう、全力を尽くして参ります。

このページでは掲載の許可をいただいた皆さまのお名前をご紹介します。

石田 保住 様
医療法人社団清和会 笠岡第一病院 様
有限会社システムコミュニケイト
代表取締役 原田 浩二 様
土井 修 様
中村 尚子 様
長谷川 富喜恵 様
三宅 克己 様
株式会社エース
代表取締役 森澤 英樹 様
株式会社藤木工務店倉敷支店 様
あおい在宅クリニック
院長 岡本 陽地 様
医療法人イマイクリニック
理事長 今井 博之 様
江尻 美恵子 様
門田 靖夫 様
山陽美業株式会社 様
竹本 雄久 様
はばら内科ハートクリニック
院長 羽原 誠二 様
株式会社 Medifellow
代表取締役 医師 CEO 丹羽 崇 様
吉本 耕三 様
石崎 貴史 様

石原 久司 様
いたのクリニック 様
香川 典子 様
國富 公人 様
株式会社ケイブラビジョン 様
小玉 淳一 様
小山 照美 様
斎久工業株式会社岡山支店 様
齋藤 愛子 様
坂本 紀子 様
塩田 照芳 様
七戸 康夫 様
清水 精治 様
高砂熱学工業株式会社 様
武鎗 清司 様
筑地 日出文 様
株式会社中電工倉敷支社 様
坪井 新 様
土肥 庄二郎 様
鍋島 義明 様
橋本 明禅 様
はやし内科
院長 林 秀彦 様
原田 和宜 様
藤井 佐千子 様

藤井 幹子 様
藤森 伸広 様
細井 重孝 様
有限会社三浦自動車 様
宮地 明弘 様
村上（花田） 沙穂 様
村田 洋子 様
室山 晃一 様
森 敏郎 様
医療法人仁徳会 森下病院 様
山根 和人 様
山本 博嗣 様
倉敷中央病院 ボランティア
グリーンはあと 様

磯島 直子 様
有限会社浦島観光 様
小笠原 敬三 様
片山 雅文 様
岸本 茂子 様
齋藤 章夫 様
定政 信猛 様
須山 知昭 様
中西 徳雄 様
額田 肇 様
長谷川 弥須雄 様
樋口 正和 様
藤原 早登 様
井上 信二 様
井上 富子 様

遠藤 志天 様
岡本 和子 様
小野 要 様
小原 得志 様
唐井 利昌 様
河野 友恵 様
木口 恵理子 様
岸 忠勝 様
株式会社キャリアプランニング 様
楠戸 工 様
近藤 岳 様
澤村 直彦 様
島 治伸 様
白神 康文 様
高浦 寛爾 様
高谷 哲夫 様
高山 裕二 様
中力 勉 様
富田 和子 様
檜村 伴睦 様
幡多 哲也 様
伏見 恵 様
古里 武士 様
政木 直也 様
増田 安泰 様
松本 奈美 様
水船 慶子 様
美和町内会 様
渡辺 一之 様

※30,000円以上のご寄付をいただき、掲載許可の方を順不同で掲載しております。



ドクターカーの購入費用（約1,600万円）を超えたご寄付につきましては、当院の救急医療で使用する医療機器の購入費などに充てさせていただきます。



倉敷中央病院からのお知らせ



洪水時にも必要な方々に医療が提供できる体制づくり に向け、当院周囲に止水壁を設置します

全国各地で近年、集中豪雨による被害が頻発しています。国土交通省の想定によると、集中豪雨で高梁川が氾濫した場合、当院1階の床上約40cm程度が浸水するとされています。地階や1階にはインフラ設備や大型検査・治療設備があります。水没による機能不全に陥れば、長期にわたって入院中の患者の治療だけではなく、近隣からの救急搬送患者の受入れにも大きな支障が生じます。

地域住民の健康を守るための備えは急務で、当院は2018年から洪水対策の検討を始めました。防災や土木など各分野の大学教授や行政関係者ら12人で構成する「倉敷中央病院洪水対策検討会」を複数回開催し、①止水壁による洪水対策は洪水リスクを大幅に低減できる、②温暖化で洪水リスクは増大しており早期の対策の実現が必要、③安全策の検討を継続して地域住民の安全にも寄与することが求められる—という提言がまとまりました。

2023年に控える創立100周年記念事業の一環として、2022年6月に当院の敷地周囲に止水壁を設置することが決定し、2022年10月着工、2024年5月に完工する予定です。

工事中は皆さまのご迷惑にならないよう努めてまいります。完工までの間、何卒ご協力いただけますようお願いいたします。

止水壁の概要

高さ1.6mの止水壁を当院の敷地周囲約800mに設置します。人や車両の出入口計17か所について、平時は自由に移動が可能です。洪水発生時には組立式の止水ゲートを設置します。

止水壁は現在当院の周囲を囲っている生け垣の内側に設置し、景観を損なわない方針です。



赤い屋根まごころ基金 —ご寄付のご紹介—

当院は一民間医療機関として補助金や交付金に頼ることなく、収入の約99%が保険診療による診療報酬を財源としております。

質の高い医療を地域の皆さまに提供するため努力を重ねておりますが、その実現には継続した人材の育成や高度な医療機器が不可欠です。ただ、国の医療費抑制政策や、医療の高度化に伴う薬剤や医療機器の価格高騰で病院経営は厳しさを増しています。

コロナ禍でも地域医療の最後の砦として、日夜を問わず職員が重症患者の治療に当たっています。地域の医療の質向上のため、誠に恐縮ではございますが、皆さま方にお力添えを賜りたく、お願い申し上げます。



赤い屋根まごころ基金のお問い合わせ先
倉敷中央病院 経理課
TEL: 086-422-0210
[月～金曜日] 8:30～17:00

公式SNSで情報発信中

市民公開講座の開催状況や疾患の解説記事、
当院で勤務する職員の紹介など、さまざまな
情報を公開していますので、ぜひご覧ください！

